

人材育成学会第2回研究会 .....

## 最近の企業内大学の創設とその狙い

～ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー編

「企業内大学 (CU) 白書」を中心にして～

日 時：2003年12月 6日 (土) 13:10～17:00 (懇親会 17:10～18:30)

会 場：(学) 産業能率大学 自由が丘キャンパス 1号館 5階大会議室

### プログラム

13:10—13:15 【開会挨拶】 大泊 剛 (株式会社人事工学研究所／人材育成学会副会長)

13:15—13:25 【本研究会の趣旨説明】 三木佳光 (文教大学)

13:25—15:00 【報告】：「CUの最新の動向について」

国内企業の実態：岩崎卓也 氏 (ダイヤモンド社ハーバード・ビジネス・レビュー編集部)

海外企業の実態：出口知史 氏 (前ダイヤモンド社ハーバード・ビジネス・レビュー編集部)

15:15—16:15 【パネルディスカッション】

研究者の立場から 関口和代 氏 (東京富士大学)

コンサルタントの立場から 蔣 麗華 氏 (リクルートワークス研究所)

CU運営責任担当者の立場から 菊地達昭 氏 (NECユニバーシティ経営研修所長)

16:15—17:00 【フロアを含めた質疑応答】

17:30—18:30 【懇親会】

CU (Corporate University) は現在全世界でおよそ 2000 校も存在しており、このペースで増え続けると 2010 年には 3700 校を超えてしまうと予想されている。日本企業においてもこうした経営幹部養成への教育投資は 1980 年代後半に既に試みられ、それが現在の日本企業 CU 創設時代に繋がっている。

日本では、いまだコア人材育成のためのビジネススクールを CU と呼んでいることが多く、また、企業研修施設やプログラムをもって CU ということもあるが、欧米の本来の CU はこれらとは全く違い、「学習企業への発展」の経緯から CU が創設・展開してきている。

本研究会は、その経緯を振り返り、戦略的人材育成の今日的フォーカスは①研修プログラムのカスタマイズ化、②人材の発掘・選抜基準の明示、③キャリア・デベロップメント・プログラム、であることを確認する。そして、これから模索される CU は単に体系的知識としての問題解決能力や意思決定能力等の鍛錬を受けた個人プレイヤー型プロフェッショナルの養成でなく、ビジネスと人生 (キャリアプランとライフプラン) の両面を融合する知性 (体系的知識と経営実践経験のシナジー効果の発揮) を発揚するものであり、企業そのものが学習企業 (自立型変革組織) となることを目指したものとなるような、建設的な意見交換の場となる研究会といたく存じます。

そこで、話題提供者として、ダイヤモンドハーバードビジネスレビュー誌 (2000 年 12 月号) に掲載された「企業内白書」の内容に基づき、最新の CU 動向を、本誌編集部の岩崎・出口両氏に報告いただきます。これを受けて、菊地氏 (NECユニバーシティ 経営研修所長) 蔣氏 (リクルートワークス研究所)、関口氏 (東京富士大学) から、それぞれの立場からのコメントと意見をパネルディスカッション方式で開陳いただき、その後、参加者との意見交換もいたしたく存じます。

企画担当 三木佳光 (文教大学) 小野公一 (亜細亜大学)